

環境活動レポート

(第19版)

(2023年7月～2024年6月)



承認	作成
25/2/5	25/2/5
小野繁男	小野邦生

作成：2025年2月5日

(株) 小野製作所

目 次

I	環境経営方針	1
II	事業の概要	2
III	環境目標とその実績	3
IV	環境活動計画及びその取組結果と評価	4
V	環境関連法規への違反、訴訟等の有無	8
VI	次期環境経営目標と環境活動計画	9
VII	代表者による全体の評価と見直し・指示	10

(株) 小野製作所 環境経営方針

基本理念

我社は金属加工を通じ、最適生産を行う事により社会に貢献し企業の発展を目指します。

環境活動行動指針

1. 環境経営システムを再構築し、継続的な環境改善、業務改善を行います。
2. 作業の効率化を図り、電力、燃料の使用量を削減します。
3. 廃棄物の分別を行い、再資源化率を高め、廃棄物の削減に努めます。
4. 水資源使用の効率化を図り、水使用量の抑制を推進します。
5. 薬品等の使用を禁止し、化学物質使用量の削減を図ります。
6. 事務用品等は、グリーン購入を引き続き進めます。
7. 生産性を上げると同時に環境効率も改善を進めます。
8. 地域社会との共存を図るため、環境に関連する法規制等を遵守します。
9. 私たちは、基本理念に基づき、この環境経営方針を理解し、環境の保全に取り組めます。

制定日：2006 年 07 月 04 日

株式会社 小野製作所

改定日：2024 年 07 月 01 日

代表取締役 小野邦生

Ⅱ 事業の概要

1. 事業所名

株式会社 小野製作所

代表取締役社長 小野邦生

2. 所在地

本社岡谷工場 〒394-0034 長野県岡谷市湖畔 1-14-22

辰野工場 〒399-0428 長野県上伊那郡辰野町南原 7461-31

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 小野邦生

連絡先 TEL:0266-23-4026 FAX:0266-23-8551

E-mail:kunio_ono@ono-seisakusho.co.jp

4. 事業の内容

各種治工具の設計・製作、航空宇宙機器部品製作、印刷機器部品製作
半導体製造装置部品製作、医療機器部品製作

5. 対象範囲

全社、全活動

6. 対象期間

2023 年 7 月～2024 年 6 月

7. 事業の規模

売上高 : 5.1 億 (67 期)

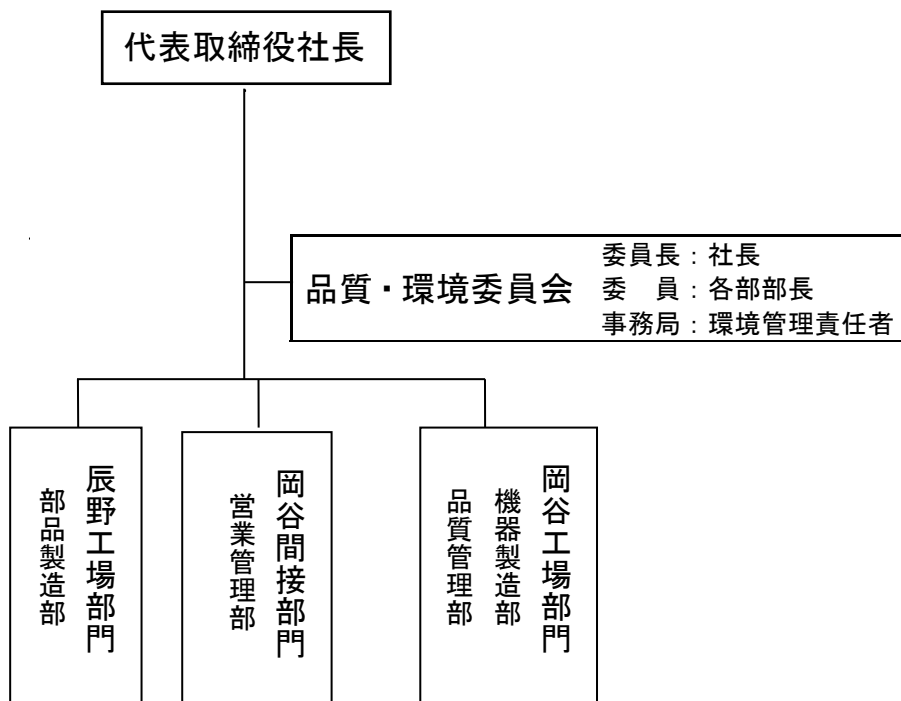
従業員 : 29 名

床面積 : 4 7 0 0 m²



工場内組織図

当社はエコアクション2.1の環境経営システムを構築し、運営する。そのための組織は、以下の通りである。



当社の職位による責任、権限は以下の通りである。

(1) 代表取締役（環境管理責任者）

- ・ 当社の最高責任者として、ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築・運用する。
- ・ 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営諸資源を準備する。
- ・ 環境方針を制定し、定期又は不定期にシステムの見直しを行い、必要な場合改訂を指示する。
- ・ 地域住民など外部からの環境に関する苦情や要望に対する対応者として誠実に対応する。
- ・ 社内に必要な教育訓練を講ずる。

(2) 品質・環境委員会

- ・ 基本、毎月初日に実施。当月のスケジュールの発表と対応について協議する。
- ・ 品質に関する前月の状況及び環境では2ヶ月前の各項目のデータを発表、問題点等の有無について討議する。
- ・ 顧客毎の情報を共有する場とする。

Ⅲ 環境目標とその実績

1. 環境負荷（過去の実績把握）

当社における二酸化炭素の排出量、廃棄物の排出量、総排水量の過去3期における実績は、以下である。

対 象 項 目	64 期 (20. 7～21. 6)	65 期 (21. 7～22. 6)	66 期 (22. 7～23. 6)	単位
二酸化炭素排出量	6 1 7, 5 0 4	6 6 6, 6 4 7	6 2 8, 7 4 3	Kg-CO ₂
（売上げあたりの排出量）	1 2 3 5. 1	1 1 1 1. 0	9 9 8, 0	Kg-CO ₂ /百万
廃棄物排出量	1 3, 2 9 4	1 6, 4 9 3	1 8, 3 1 4	Kg
（売上げあたりの排出量）	2 6. 6	2 7. 4	2 9. 0	Kg/百万
水使用量	4 0 0	4 7 7	4 3 4	m ³
（売上げあたりの排水量）	0. 8 0	0. 7 9	0. 6 8	m ³ /百万
生産・販売・提供する製品・サービスの環境性能の向上	不良の削減 5S 活動での整理整頓 岡谷工場のレイアウト変更	不良の削減 5S 活動での整理整頓 岡谷工場のレイアウト変更	不良の削減 5S 活動での整理整頓 生産管理システムの導入	

2. 環境目標

（1）環境活動実施期間：2023 年 7 月～2024 年 6 月（67 期）

①二酸化炭素排出量の削減

総排出量で対 66 期比 1%削減 622, 455（k g-C O 2）

②廃棄物等総排出量の削減

総排出量で対 66 期比 1%削減 18, 130（k g）

③水使用量の削減

水使用量で対 66 期比 維持 434（m³）

④生産・販売・提供する製品・サービスの環境性能の向上

（2）中長期目標 68 期 69 期 70 期

■68 期（24. 7～25. 6）

①二酸化炭素排出量の削減

総排出量で対 65 期比 3 %削減 646, 647（k g-C O 2）

②廃棄物等総排出量の削減

総排出量で対 65 期比 3 %削減 15, 998（k g）

③水使用量の削減

水使用量で対 65 期比 維持

④生産・販売・提供する製品・サービスの環境性能の向上 実施

■ 69 期 (25. 7～26. 6)

①二酸化炭素排出量の削減

総排出量で対 65 期比 4 %削減 639, 981 (k g-C O 2)

②廃棄物等総排出量の削減

総排出量で対 65 期比 4 %削減 15, 833 (k g)

③水使用量の削減

水使用量で対 65 期比 維持

④生産・販売・提供する製品・サービスの環境性能の向上 実施

■ 70 期 (26. 7～27. 6)

①二酸化炭素排出量の削減

総排出量で対 65 期比 5 %削減 633, 314 (k g-C O 2)

②廃棄物等総排出量の削減

総排出量で対 65 期比 5 %削減 15, 668 (k g)

③水使用量の削減

水使用量で対 65 期比 維持

④生産・販売・提供する製品・サービスの環境性能の向上 実施

* 要求事項 4 の「化学物質使用量の削減」について弊社は取り扱いがないので記載なし

3. 実績(67 期)

* 中部電力の二酸化炭素排出係数は 0. 497 (Kg-CO2/Kwh) とする (平成 26 年度の値)

対 象 項 目	67 期 (23. 7～24. 6)	対 67 期比	達成 状況
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	572, 340	-8. 9%	○
(売上げあたりの排出量)	1, 100	+10. 2 (%)	(×)
廃棄物排出量 (kg)	14, 982	-18. 1%	○
(売上げあたりの排出量)	28. 8	-0. 68 (%)	(○)
水使用量 (m³)	402	-7. 4%	○
(売上げあたりの使用量)	0. 77	+13. 2 (%)	(×)
生産・販売・提供する製品・ サービスの環境性能の向上	全工場 LED 化・エアコン設 備の一部更新		○

IV環境活動計画及びその取組結果と評価

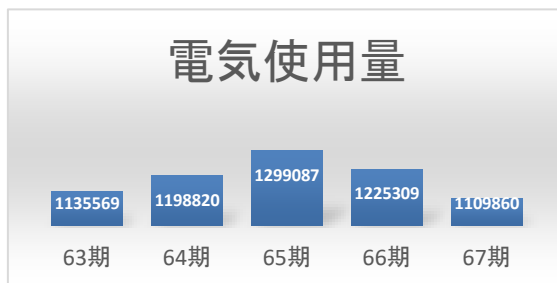
【1】二酸化炭素排出量の削減

（1）電力使用量の削減

＜計画＞

- ・照明、パソコン等不要な場合のこまめな電源オフ。（ステッカー貼付により、注意を促す。）
- ・昼休み、未使用時の加工機の電源オフ。
- ・業務の効率化をすすめ、時間外労働の短縮化を図る。
- ・事務所の室温の調節。（夏室温 28 度、冬室温 22 度に設定。）
- ・エアーが漏れている箇所を修繕し、コンプレッサーの負荷を減らす。

＜評価＞



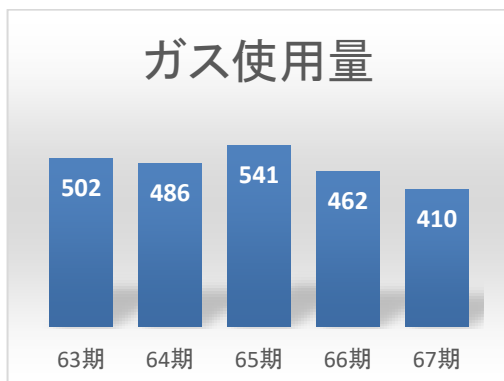
半導体製造装置関連部品が 66 期に比べ減少し、稼働時間が減った事と工場内の照明を LED に変えた事も影響していると思われる。

（2）ガス使用量の削減

＜計画＞

- ・手洗い時等のお湯の効率的な使用を心がける。
- ・岡谷工場、食堂の適切な暖房の使用。

＜評価＞



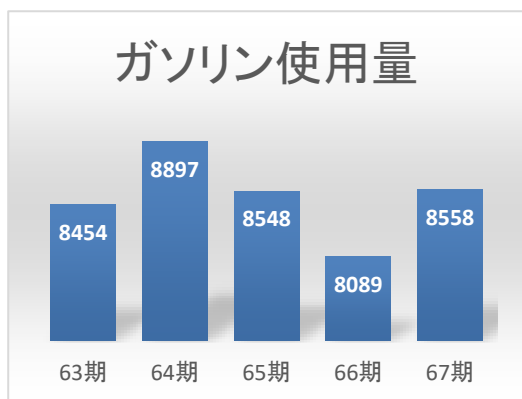
お湯を使用する（洗浄工程）の製品の減少もあり減少傾向である。

(3) ガソリン、軽油の使用量削減

<計画>

- ・無駄なアイドリングをやめる。
- ・新車購入などの際は燃費を考慮して購入する。
- ・急発進、急加速などをやめて、燃費の良い運転を実施する。

<評価>



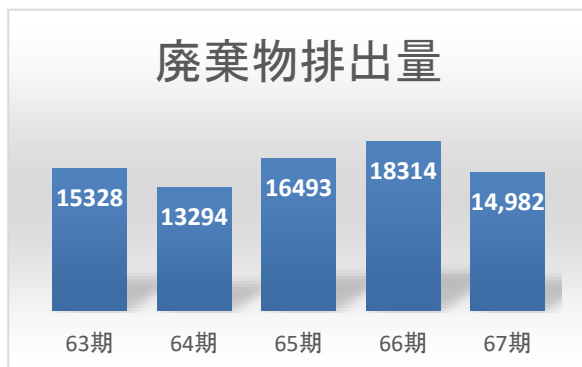
コロナが明け、本格的に対面での営業を開始した事で、遠方へ移動する機会が増え、伴い使用量が増加した。

【2】廃棄物排出量の削減

<計画>

- ・無駄なコピーを減らし、可能な場合は裏紙を使用する。
- ・市へのごみ処理委託から民間の業者に変更し、より細かいごみの分別を行って、焼却ごみを減量し、再生できるものを増やす。
- ・顧客との連絡に、可能な場合はメールを使用しファクスでのやりとりを減少させる。
- ・自販機による缶などは所定の回収ボックスに入れ、業者に処分してもらうことを徹底する。
- ・製品の発送時のダンボール箱は再使用し、可能な場合は新聞紙を緩衝材として使用する。
- ・個人で持ち込んだゴミは、各自持ち帰る。
- ・できるかぎりエコ商品の購入をすすめる。
- ・ゴミステーション内を再整備しより整理した状態で管理する。

<評価>



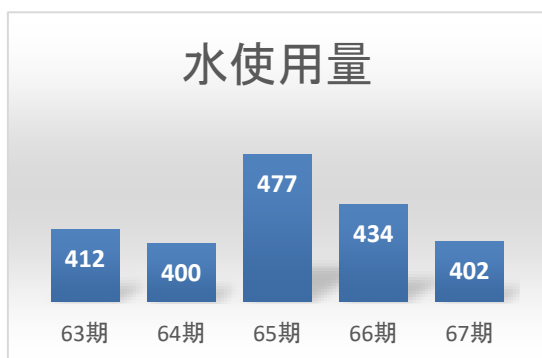
売上減、また出荷量が減ったことで梱包材の購入機会減少、切削油の使用量減少に繋がった。

【３】水使用量の削減

<計画>

- ・水道の流量を調節し、効率的に使用する。
- ・水溶性切削油の濃度を適正に管理する。
- ・節水蛇口を取り付けて、使用量を削減する。

<評価>



水溶性切削油の使用量が減ることにより減少した。また洗浄工程も減少した事も要因と考えられる。

【４】生産・販売・提供する製品・サービスの環境性能の向上

<計画>

- ・会社周辺のゴミ拾いの実施。（岡谷）５３０運動への参加。（辰野）
- ・緊急事態に備える訓練の実施。
- ・見える化⇒作業効率化
- ・会社内の照明を LED 化
- ・エアコン設備の更新

<評価>

- ・会社周辺のゴミ拾いは継続して今期も行った。
- ・緊急事態に備える訓練（油漏れ）を両工場にて実施。
- ・不測の事態に備え、消防署の方を講師に招き救命訓練を行った。
- ・電気使用量を抑えるため両工場とも証明を LED に取り換えた。
- ・夏場の電力・また暑さに対応するため省エネのエアコンに一部切り替えた。

V 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の事業活動で、遵守すべき環境関連の法規は、下表のとおりです。

名称	要求事項	対象施設	チェック結果
騒音規制法	原動機の定格出力7.5kW以上は、特定設備設置の届出	コンプレッサー	騒音測定記録 ○
			○
廃棄物処理法	一般及び産業廃棄物の処理 水銀使用製品産業廃棄物の処理 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	水溶性切削油、廃プラ等 蛍光灯・ボタン電池等	マニフェスト
			○
グリーン購入法	可能な限り環境物品の購入に努める	文具、備品等	○
フロン排出抑制法	空調機器有資格者による点検、簡易点検記録の保管、漏えい時の報告等	エアコン用フロン	業者に依頼 3か月に一回 (簡易点検)

(2024年7月1日確認)

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規は上記の表の通りである。環境管理責任者小野邦生が中心となり、法規の遵守状況についてチェックを行い、現在及び過去3年間問題がないことを確認しました。又、同様に関係当局、顧客および近隣からの指摘、苦情、訴訟など是一件もありませんでした。

VI 次期環境目標と活動計画

68期環境目標

＜エコアクション21 2017年度版移行に伴い項目等変更＞

67期に対し二酸化炭素排出量1%減少

廃棄物排出量 1%減少

水使用量 維持

生産・販売・提供する製品・サービスの環境性能の向上

*要求事項4の「化学物質使用量の削減」について弊社は取り扱いをしていないので記載なし

68期環境活動計画

環境経営活動計画書(68期)														登録NO. 24-01				
【環境経営方針】 基本理念														制定 2024年7月1日				
環境活動行動指針																		
1. 環境経営システムを再構築し、継続的な環境改善、業務改善を行います。																		
2. 作業の効率化を図り、電力、燃料の使用量を削減します。																		
3. 廃棄物の分別を行い、再資源化率を高め、廃棄物の削減に努めます。																		
4. 水資源利用の効率化を図り、水使用量の抑制を推進します。																		
5. 薬品等の使用を禁止し、化学物質使用量の削減を図ります。																		
6. 事務用品等は、グリーン購入を引き続き進めます。																		
7. 生産性を上げると同時に環境効率も改善を進めます。																		
8. 地域社会との共存を図るため、環境に関連する法規制等を遵守します。																		
9. 私たちは、基本理念に基づき、この環境経営方針を理解し、環境の保全に取組みます。																		
要点	環境経営目標	アプローチ方法	活動計画	担当者	スケジュール											結果		
					7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5		6	
改善	二酸化炭素排出量 対67期比 1%削減	機械メンテナンス より改善 する	エアコン・MCのフィルター清掃	担当者		○					○					○		
			エアー漏れの確認修繕	担当者														
		モニタリング	マシニングの埃清掃	担当者		○						○					○	
			電気使用量をモニタリングする	専務	通年	—												→
改善	廃棄物等 総排出量 対67期比 1%削減	梱包材購入 機会の減少 より改善する	ガス使用量をモニタリングする	専務	通年	—											→	
			ガソリン使用量をモニタリングする	専務	通年	—											→	
		経過観察	段ボール箱を各要所より入手、再利用する	専務	通年	—											→	
			プラバンドを再利用する	担当者														
監視	水使用量 対67期比 維持	経過観察	外注等の梱包材を再利用する	担当者													→	
			廃プラ排出量をモニタリングする	専務														
改善	生産・販売・提供 する製品・サー ビスの 環境性能の向上	不具合削減・ 生産効率化・ 人材教育より 改善する	監視により維持	全員	通年	—											→	
			水使用量をモニタリングする	専務	通年	—											→	
			不良削減	全員	不適合5件以内													
			5S活動の整理整頓での効率化	全員	通年随時													
改善	環境性能の向上	人材教育より 改善する	エアコンの更新	社長														
			会社周辺のゴミ拾い活動	対象者														
			緊急事態に備える訓練	全員						○							○	○
8月までに																		

Ⅶ 代表者による全体の評価と見直し・指示

- 環境経営方針・・・・・・・・・・変更なし
- 環境目標及び環境経営計画・・・・効率化、工場内 LED 照明化、エアコンの更新、救命訓練、会社周辺のゴミ拾いの実施
- 実施体制・・・・・・・・・・68 期より代表者変更

今期 67 期は前期に比べ半導体関連部品の製造が一服し、客先の在庫過剰の為、生産は前期に比べ落ち機械稼働が低下した事で、すべての項目において目標達成となった。また物価高騰や電気代の高騰、二酸化炭素削減に対応するため、館内の LED 化を行った。エアコンの更新は価格高騰で一部のみの更新となり来季に残りを引き継ぐ形となった。

68 期は代表者が変わり、また各顧客の担当なども変更する予定で顧客とのパイプを強固にするため、客先への訪問機会を増やす方向でありガソリン使用量は増える見込みではあるが、エコドライブをより心がけ受注機会の維持増大を図る。

設備の投資については 67 期でできなかった残りのエアコン設備の更新を来季行う。

